

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部 2年

氏名: 林 海昶

授業科目名	海外歯科研修プログラムII
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>全ての授業は英語で行い、研修の三日間はローテーション形式でグループを分けて、膵臓β細胞のインスリン分泌を顕微鏡で観察やパノラマX線画像による検体の年齢推定に関する講義、小児の口唇口蓋裂の手術見学をした。特に、小児の口唇口蓋裂は専門科目を習い始めた自分にとっては貴重な経験となり、これから歯科医師を目指す者としてのモチベーションにも繋がった。そして、学校の授業の後はインドネシアの文化体験、現地の大学生との交流を行い、日本との違いを肌で感じることで異文化に対する理解を深めた。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>現地で気づいたことは、まずインドネシアはどこに行っても若い人が多いことであった。高齢化が進む日本とは違う活気を感じた。そして、女性の多くはジルバブを身につけていたが、最初は同じものに見えたジルバブが10日間生活する中で、カラーやデザインの多さに気づいて、髪の毛を隠す代わりにジルバブで多様性を追求していることに文化の面白さを感じた。最後にインドネシアには多くの島があり、島によって文化や言語がかなり違うことを現地の大学生が教えてくれて、一つの宗教の中でも多様に驚いた。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>インドネシアの国民のほとんどはイスラム教徒であり、大学とショッピングモールのような多くの人々が行き交うところには必ずお祈り場所があった。一日5回の礼拝があるため、お店の営業時間中にもお店を一時閉店してお祈りをするすることがあり、最初は戸惑った経験をしたが、宗教による文化の違いについて考えることになり、今まで多様性について考えてこなかった自分に対して反省するきっかけにもなった。また、研修の後半には体調を壊して現地の病院に行ったが、イスラムは男性中心社会との偏見を持っていたが、女性医師が多く、女性の社会進出が多いことにも驚いた。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>自分は国際交流部に所属しており、毎年外国人に対して無料歯科検診ボランティア活動を行っている。今までは外国人と接する上で最も重要なことは英語等を使って、言葉が通じることだと思っていたが、研修の学びから言葉が通じるだけでなく、外国人の患者さんに寄り添うためにはその人が生きてきた環境、文化を知る必要があると感じた。これからはインドネシアをはじめ世界各国の人々との交流をすることで異文化を体験、理解して全ての人々に寄り添えるような医療人になりたい。</p>	